

① 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

何年かまえ、ホノルルを訪れる日本人観光客について、ひとつの調査がおこなわれた。ホノルルというところは、現代の海外旅行ブームの X のようなところで、年間に数十万人の日本人が訪れ、季節によっては、ワイキキなどの観光地は、日本の一部ではないかと思われるほどたくさん日本人によって埋まってしまふ。いったい、どんな動機で、なにを目的にして、こんなにたくさん日本人がハワイにやってくるのか——それをしらべるのが、この調査の目的であった。いろいろな答えがあった。しかし、回答に共通の特徴がひとつあった。それは、これら日本人観光客がひとりの例外もなく、ハワイについて、かなり正確な Y をもっていたということである。ほとんどすべての人が、たとえば、ダイヤモンド・ヘッドだの、パンチボールだの、といった有名観光地の地名を知っていたし、また、若い人たちのばあいには、ハワイアン音楽の曲名をあげてください、という問いにたいして、すぐに二、三曲をあげることができた。なかには、ホノルルの地理から歴史まで、相当に詳しい知識をもっている人もいた。

どうしてそんなにハワイのことをよく知っているのですか、という問いにたいしては、新聞・雑誌・テレビなどのマス・コミ ① 媒体をつうじて知った、という人もあり、また、旅行案内を読んで学んだ、という人もいた。さらに、じぶんの ② 親戚だの友人だのから、ハワイに行つてのみやげ話をきいた、という人もすくなくなかった。もはや、現地ガイドなどが、いちいち説明するにはおよばないほど、これら日本人観光客のハワイについての知識は、ゆたかなものであった。かれらの頭のなかには、ハワイ情報がぎっしりつまっていた。ハワイに関するパンフレットは、ほとんどすべての人が読んでいたし、映画やポスターでハワイの風景を事前にみたことのない人は、ひとりもいなかった。

理屈からいえば、これだけよくハワイについて知っている人が、じつさいに、多額の旅費を投入してハワイまでやってくる必要はどこにもなさそうであった。それなのに、なぜこの人たちがくるのか。この観光客にたずねてみると、こういう答えがかえってきた——

「ハワイについて、ずいぶんいろんなことをききましたが、それがほんとうかどうか、たしかめたいと思って、来てみました。」

この答えは、きわめて象徴的に現代人のこころの構造を物語っているように思える。もともと人間の認識の方法からいうなら、まず実在なり現実なりというものがあって、その認識をふまえて、イメージなり ア メイ題なり、あるいは理論なり、といった一連のシンボル構成がおこなわれるのが論理的な順序というものであった。ところが、それまでに、人からきいたことがほんとうかどうか、それをたしかめる、というのは、話が逆なのである。こんにちの観光客のばあいは、まずさいしょにイメージがある。そのイメージは、ふんだんに、イ 提キョウウされており、こ

んにちの人間たちの内部に、あふれるほど蓄積されている。A そのイメージ a の b の c として、 d というものが e 的に立ちあらわれてくるのである。

こうした、イメージと現実との逆転現象についてブアスティンは、こう分析する――  
 「われわれの興味の大部分は、われわれの印象が、新聞・映画・テレビに出てくるイメージに似ているかどうかを知りたいという好奇心から生まれる。ローマのトレビの噴水は本当に『愛の泉』という映画のなかで描かれたようなものなのであるか？ 香港はほんとうに『ウ』ボ情』のよ  
 うなのであるか？ そこはスージー・ウオンでいっぱいなのであるか？ われわれは、現実  
 によってイメージを確かめるのではなく、イメージによって現実を確かめるために旅行する。」

じつさい、こんにちの旅行者たちは、現地に足をはこんで、かつて絵ハガキでみたのとおなじ  
 風景をながめ、その現実が絵ハガキとそっくりであることをたしかめることで満足するのだ。絵  
 ハガキが現実とそっくりであることを発見し、絵ハガキの製版だの発色だのすばらしさに感服  
 する、というのなら、はなしはわかる。しかし、ここではその (五) 序レツが完全にひっくりかえ  
 っている。われわれは、絵ハガキが現実に対応していることに感心するのではなく、現実が絵ハ  
 ガキに対応していることに感心するのだ。われわれのかがえかたの基本テキストになっている  
 のは、イメージの世界なのである。だから、現実が絵ハガキのとおりでなければ、その現実をお  
 かしいとかがえたりする。

このような、逆立ち現象は、われわれの日常経験のなかで、けっしてめずらしいことではない。  
 わたしは、あるとき、(オ) 新カン線 のなかで、ある有名な歌手とのりあわせたことがある。ふだ  
 ん、テレビだの雑誌のグラビアだので、その人の顔はおなじみになっていたので、すぐにわたし  
 にも識別ができた。【 ① 】

そのおなじ列車に、どこかの女子高校の生徒たちが修学旅行かなにかで、たくさんのおついで  
 た。彼女たちにとって、その歌手はアイドルであるらしく、つぎからつぎへとやってきて、その  
 人物の顔をのぞきこむのであった。そして、その女子高校生のひとり、あら、ほんとにテレビ  
 で見るのとそっくりだわ！と ③ 嘆声 を発したのである。わたしは、そのひっくりかえった発想に  
 おどろき、ふき出しそうになったが、よくかがえてみると、わたしじしんのこころのなかでも、  
 それとまったくおなじ発想がつくられていたことに気がついた。なにしろ、ふだん、ほとんど毎  
 日のようにテレビに登場する有名スターであってみれば、そのイメージは、うんざりするほどわ  
 れわれのなかにたたきこまれ、蓄積されている。しかし、そのほんものご本人にはいちどもお  
 目にかかったことがない。とすると、そのご本人がテレビで見るとそっくり、というのは、き  
 わめて B 健全な判断のしかたといわなければならぬ。【 ② 】

ほんもの、あるいは現実と、その現実に対応するシンボルとのあいだの関係については、これ  
 まで多くの学者が、すぐれた ④ 比喩 によって語ってきた。リップマンは、「頭のそとの世界」と「頭

のなかの世界」という対比をつかったし、ハヤカワはC「現地」と「地図」というたとえによって、この問題を論じた。しかし、だいたいなことは、こんにちの世界では「地図」のほうが圧倒的にふくれあがり、「現地」との照合がきわめてむずかしくなっている、ということなのである。そして、べつだん照合しなくても、「地図」の世界は、それなりにいくらでも精密になってゆくことができるものなのだ。【③】

高田保は、現代日本の異色の評論家だったが、かれは、パリについて、おそらく他の日本人の誰よりも、いや、多くのフランス人よりもはるかに博識であった。かれは、パリの裏通りの片隅の建物だの、人のあまり知らない料理屋だの、その店の名物料理だの、とにかく、パリのことは、なんでも知っていた。フランスにながいあいだ滞在していた日本人が帰朝したりすると、高田は、パリのあちこちの地名を⑤流暢にあげながら、こまかなパリの消息を語りあつた。そして、相当地にパリに精通している、という自信を持った新帰朝者たちも、高田の博識をまえにはDカブトをぬいだものであつたらしい。【④】

しかし、おどろいたことに、パリのことならなんでも知っているこの高田保じしんは、その生涯にいちどもパリはおろか、フランスにも行ったことがなかったのである。かれがパリに行ったのは、その没後に、かれの友人たちがその遺影をパリにはこび、それをセーヌ河に流したのがさいしよでさいごであつた。【⑤】

いちども行ったことがないのに、どうしてこんなに博識でありえたのか。要するに高田は、パリについての、ありとあらゆる情報を精力的にあつめ、それを徹底的に記憶して、頭のなかにパリのすべてを構成していたのである。小説の断片、新聞の記事、写真、道路地図……それらを丹念に見たり読んだりすることで、かれはパリを知つた。なまはんかな旅行者がパリにひと月やそこら滞在したつて、とうてい高田の知識に勝つことなんか、できた相談ではなかつたのである。「現地」での直接認識などしなくても、「地図」を厳密にしらべれば、たいていのことはわかるものなのだ。現代というのは、「地図」がほとんど無制限にふくれあがつている時代なのである。

【⑥】  
じっさい、われわれは、たとえば高田保のパリ知識について、いろいろな意味で感動するけれども、われわれじしんもまた、高田とおなじような立場にいるのではないか。

たとえば、われわれは、毎日の新聞を丹念に読むことによつて、いま、ベトナムでどのようなことが発生しているのかを細部にわたつて知ることができる。各戦線の戦況（注1）も、北爆の出撃機数も、ぜんぶわかる。くわしくしらべたければ、さらに細部にわたつての情報も入手できるだろう。もちろん、わからないこともたくさんあるけれども、かなりのことを知ることができるといふ。そして、その知識量は、たとえば、平均的なベトナム政府軍の将校や兵士が「現地」で知っているベトナム戦争の現実をはるかに上まわっているとみてよいだろう。「現地」に密着している

から、そのことによって無条件的に、誰よりもものをよく知っている、とかんがえるのは、かならずしも正しくはないのである。

たいていのことが、直接経験ぬきで、シンボリックにわかっってしまうというのは、それじたい、たいへんに便利でありがたいことだけれど、それは、しばしば、シンボルと実在との関係をゆがめる。そのひとつの例が、現代の子どもや若者たちのあいだにみられる「早熟」(early sophistication)の問題である。現代の若い世代は、情報爆発の衝撃によって、かれらが、これからさきのながい人生のなかで経験するであろう、もろもろのできことだの、問題だのを、シンボリックにすっかり「先取り」してしまっているのだ。

たとえば、いまの平均的な大学生に、かれのこれからの人生のイメージをえがかせてみたらよい。かれらは、すくなくならず憂いにみちた顔つきで、やがてじぶんは単調なサラリーマン生活にはいり、退屈な日々がつづくであろう、といったような予想を、かなりの現実性をもって語る。就職ということは、それほど大きなよろこびではないらしい。ついこのあいだまでの若者たちは、なにがなんだかわからないままに、とにかく職業生活という現実のなかにほうりこまれ、その現実の体験から、サラリーマン生活のよろこびや悲しみを学びとったのだが、こんにちのようにサラリーマン小説だの文明批評だのがたくさん出版されるようになると、それを読むことによって、もう、じぶんの将来がぜんぶわかってしまったような気になるのも無理からぬことだ。近代の小説というものは、「これからきたるべき事態にたいしての予備学習」であって、その「予備学習」によって、読者たちは将来にそなえたのだが、現代の若者たちにとつて、将来のイメージは、「予備学習」ではなく、すでにはっきりとした輪廓をもった「現実」そのものなのであるらしい。

将来を、現実として先取りしてしまったら、生きてゆくことじたいが無意味化する。これまでの人間たちは、人生のなかで、さまざまな経験をつみ、さまざまなことを学びながら生きてきた。情報爆発時代の若者たちは、それに反して、非常に若いうちから、人生に飽きてしまっているのがある。かれらは、シンボリックに、人生につかれてしまったのだ。

その根底にあるのは、イメージと現実との、逆立ち現象である。テレビの俳優の映像がさきにあって、ほんものが、その映像に照らして評価される、というのは、かならずしも、正当な論理ではない。未来をシンボリックに先取りしてしまったら、そして、イメージと現実をとりちがえてしまったら、そこには空々漠々たる余白だけがのこって、しよせん、生きてゆく気力もくじけてしまうであろう。われわれは、イメージと現実の関係をひっくりかえすことによって、これまで人類が知らなかった不幸をいつのまにか背負っているかのようにもみえる。

加藤秀俊『情報行動』

(注1) 1955年から1975年のベトナム戦争

問1 傍線部（ア）～（オ）に相当する漢字を含むものを、次の各群の①～④の中からそれぞれ一つずつ選び、解答用紙の所定の箇所にマークしなさい。解答番号は  ～

（ア） メイ題

- ① 同メイ国に加わる
- ② 生メイ保険に加入する
- ③ 鮮メイな記憶がある
- ④ ごメイ福をお祈りします

（イ） 提キョウ

- ① ピアノキョウ奏曲
- ② キョウ犯者がいる
- ③ 寄付をキョウ要する
- ④ 需要とキョウ給

（ウ） ボ情

- ① 思ボの念を抱く
- ② 人員をボ集する
- ③ ボ穴を掘る
- ④ お歳ボを贈る

（エ） 序レツ

- ① レツ火のごとく怒る
- ② 式にレツ席する
- ③ レツ勢を盛り返す
- ④ レツ傷を負う

（オ） 新カン線

- ① 円にカン算する
- ② カン状線内回り
- ③ 忘年会のカン事になる
- ④ カン善懲悪の小説

問2 傍線部①～⑤の漢字の読みとして間違っているものを、次の①～⑤の中から一つ選び、解答用紙の所定の箇所にマークしなさい。解答番号は

- ① 媒体 ばいたい
- ② 親戚 しんせき
- ③ 嘆声 かんせい
- ④ 比喩 ひゆ
- ⑤ 流暢 りゅうちよう

問3 空欄  に入れるのに最も適切な語を、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答用紙の所定の箇所にマークしなさい。解答番号は

- ① 象徴
- ② 望郷
- ③ 夢想
- ④ 回答
- ⑤ 検証

問4 空欄  に入れるのに最も適切な語句を、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答用紙の所定の箇所にマークしなさい。解答番号は

- ① 格たる動機
- ② 予備体験
- ③ 体験情報
- ④ 目的意識
- ⑤ 予備知識

問5 傍線部Aにある空欄  ～  に入れるのに、最も適切な語を、次の①～⑥からそれぞれ一つ選び、解答用紙の所定の欄にマークしなさい。（選択肢重複使用不可）

- 解答番号は
- a
  - b
  - c
  - d
  - e
- ① 最終    ② 蓄積    ③ 現実    ④ 手段    ⑤ 検証    ⑥ 目的

問6 次にあげる文は、本文中から抜き出したものです。戻すべき適切な箇所を、本文中の〔①〕～〔⑥〕の箇所から一つ選び、解答用紙の所定の箇所にマークしなさい。解答番号は〔14〕

その、無制限のふくれあがりは、「情報爆発」と呼ばれるにふさわしい。

問7 傍線部B「健全な判断のしかた」の意味として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答用紙の所定の箇所にマークしなさい。解答番号は〔15〕

- ① 若者らしい健康的な発想
- ② 道徳的に正しい判断
- ③ 個性的で独特な論理
- ④ 当然と思われる考え方
- ⑤ 筆者と同じ判断の仕方

問8 傍線部Cに「現地」と「地図」とあるが「地図」に相当するものとして最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答用紙の所定の箇所にマークしなさい。

解答番号は〔16〕

- ① 頭のことの世界
- ② 日常経験
- ③ 現実の体験
- ④ 実在
- ⑤ シンボル

問9 傍線部D「カブトをぬいだ」の「カブト」と入れ替えても、意味がそれほど変わらない語を、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答用紙の所定の箇所にマークしなさい。

解答番号は〔17〕

- ① ハカマ
- ② ヘルメット
- ③ マフラー
- ④ シューズ
- ⑤ シャツポ

問10 本文の内容に最も合うものを、次の①～⑥のうちから一つ選び、解答用紙の所定の箇所に

マークしなさい。解答番号は 

18
----

- ① 今やわれわれの考え方の基本テキストになっているのは、「絵ハガキ」ではなく、「イメージの世界」なのである。
- ② イメージと現実との逆立ち現象は、稀にしか起きないことではあるが、現代的な問題を提起しているといえる。
- ③ こんにちの世界では情報が正確になったので、現実との照合は必ずしもする必要がなくなったのである。
- ④ 現代は細部にわたって情報が入手できる時代となったので、分からないことはほとんどなくなったといえる。
- ⑤ 未知の将来を「現実」として先取りしてしまうことは、今までの人類が知らなかった不幸といえよう。
- ⑥ 「百聞は一見に如かず」という諺の通り、現地に密着している者の方が誰よりもものをよく知っているのだ。

② 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

インターネットの普及は、社会における情報のアクセス方法やコミュニケーションの方法を劇的に変化させた。人々はSNSなどのプラットフォームで意見や情報を自由に共有し、瞬時に大勢の人々に情報を届けることができるようになり、人類総メディア時代が到来した。

それに伴い、「ネット世論」という言葉をよく耳にするようになった。インターネット上では多様な人々が様々な意見を言っており、a運動もしばしば起こっている。マスメディアもそのようなインターネットを人々の意見の場として取り上げ、報道することが少なくない。

しかし、実はインターネット上の意見分布が大きく歪んでいることが、筆者の実証研究で明らかになっている。それを世論としてマスメディアが報じたり、政府・政治家・企業・個人もそう捉えたりすることで、大きな問題が引き起こされていることを筆者はA危惧している。

なぜインターネット上の意見分布は歪むのか。それは、インターネット上の意見にはbな情報発信しかないためである。つまり、言いたいことのある人だけが言い続ける言論空間だ。その結果、極端な意見や強い信念を持った人々が大量に発信することが容易になっている。これは、通常行われるような世論調査が、聞かれたから答えるというcな発信であるのと逆である。

筆者は2018年に、20～60代の男女3095人を対象としたアンケートを実施し、意見の強さとSNS投稿行動の関係を分析した。dには、ある一つの話題——ここでは憲法改正——に対する「意見」と「その話題についてSNSに書き込んだ回数」を調査し、分析した。分析では、「非常に賛成である」～「絶対に反対である」の7段階の選択肢を用意し、回答者の意見とSNSに投稿した回数を収集した。

そのデータから、回答者の意見分布とSNSでの投稿回数分布を分析した結果、まず、回答者の意見分布は「どちらかといえば賛成（反対）」「どちらともいえない」といったeな意見の多い①山型となった。しかし、SNSの投稿回数分布は、最も多いのが「非常に賛成である」人の意見（29％）で、次に多いのが「絶対に反対である」人の意見（17％）という、②谷型の意見分布になったのである。この強い意見を持っている人たちは、回答者には7％ずつしか存在していなかったにもかかわらず、SNS上では合計46％の意見を占めていたのだ。

インターネット上の意見分布が歪んでいる③証左は他にもある。東京大学のT教授の研究によると、20年の東京都知事選挙において、ツイッター（現X）上の言説を分析したところ、二つのクラスターが観察された。大きいクラスターには現職のK都知事への批判ツイートが多数含まれていた。もう一つのクラスターには、諸派の候補を支持する内容などが含まれていた。このように、ツイッター上にはK都知事を支持するような言説はあまり見られなかったが、選挙結果は

K氏が366万票を集めてトップであり、2位のU氏は84万票と、K氏の圧勝といってもよいものであった。

昨今、マスメディアは情報の取得源としてインターネットを頼りにしている。しかし残念なことに、その際にこのBバイアスを見落とすことが多い。特に、SNS上でのトレンドやバズといった情報は、多くの人々の意見を反映しているように見えるが、実際には一部のノイジーマイノリティーの意見が目立っていることも少なくない。その結果、サイレントマジョリティー、

I 静かに意見を持っているがそれを公然と表現しない④少数派の声、マスメディアに拾われない。

この現象がもたらすC社会的な影響は大きい。ノイジーマイノリティーの声が過度に強調されることで、社会のなかでの意見やD価値観の多様性が失われる恐れがある。また、一部の声ばかりがマスメディアを通じて大きく取り上げられてEお墨付きを得ることで、不要な対立や誤解を生む可能性もある。さらに、一部の声⑤多数派として伝わり、公共の議論や意見決定の参考とされてしまう。

この問題を解決するためには、マスメディアがインターネット上の情報を取り扱う際のアプローチを見直す必要がある。II、インターネット上の情報を取得する際には、その情報が本当に多くの人々の意見を反映しているのかを入念に確認したうえで、多様な情報源を横断的に調査し、様々な意見をバランスよく収集することが大切だ。III、重要なテーマについては必ず意見調査やアンケートを行い、人々の受動的な発信による意見分布を把握しておく必要がある。

IV、扱うテーマに関する専門家の意見や分析をより多く参考にし、インターネット上の声に振り回されない質の高い報道を行っていくことも重要だろう。

V、社会全体として、情報を受け取る側のメディア情報リテラシーを高めることも必要である。人々が、情報の発信元やその背景、バイアスなどを疑問視する姿勢を持つことで、一部の意見が過度に強調されることの影響を軽減することができる。

筆者はよく「ネット世論はない」と指摘している。そこには確かに人々の生の声があるが、それをストレートに社会全体の意見として捉えるのにはあまりにも大きなリスクがある。社会の声のバランスを取り戻すためには、マスメディアと情報を受け取る側の双方が、その課題に向き合い、適切な対応を取る必要がある。

問1 空欄 a ㄱ e に入れるのに最も適切な語を、次の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選び、解答用紙の所定の箇所にマークしなさい。（選択肢の重複使用は不可とする）

解答番号は a 19 b 20 c 21 d 22 e 23

- ① 受動的
- ② 能動的
- ③ 具体的
- ④ 抽象的
- ⑤ 中庸的
- ⑥ 政治的

問2 傍線部①～⑤の語のうちに、明らかに間違つた語に書き換えられているものがある。その語を、①～⑤のうちから一つ選び、解答用紙の所定の箇所にマークしなさい。

解答番号は 24

- ① 山型
- ② 谷型
- ③ 証左
- ④ 少数派
- ⑤ 多数派

問3 傍線部A「危惧」の意味として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答用紙の所定の箇所にマークしなさい。解答番号は 25

- ① 絶体絶命の危機が迫ること
- ② 危険に気がつかないこと
- ③ 危ぶみおそれること
- ④ 杞憂すること
- ⑤ 老婆心を抱くこと

問4 傍線部B「バイアス」の対義語に最も近い本文中にあるカタカナ外来語を、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答用紙の所定の箇所にマークしなさい。解答番号は 26

- ① プラットフォーム
- ② アンケート
- ③ クラスター
- ④ アプローチ
- ⑤ バランス

問 5 傍線部 C の「社会的な影響」を改善（解決）するために筆者が取り上げていないものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答用紙の所定の箇所にマークしなさい。  
 解答番号は 27

- ① 多様な情報源を横断的に調査する。
- ② 人々の受動的な発信による意見分布を把握する。
- ③ 専門家の意見や分析を把握しておく。
- ④ ノイジーマイノリティの発言・発信を規制する。
- ⑤ 情報を受け取る側のメディアリテラシーを高める。

問 6 傍線部 D 「価値観」の「観」と同じように「かん」の漢字表記が「感」ではなく「観」とする方が適切なものを、次の①～⑥のうちから一つ選び、解答用紙の所定の箇所にマークしなさい。解答番号は 28

- ① 違和カン
- ② 危機カン
- ③ 罪悪カン
- ④ 使命カン
- ⑤ 先入カン
- ⑥ 優越カン

問 7 空欄 I ～ V に入れるのに最も適切な語の組み合わせを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答用紙の所定の箇所にマークしなさい。解答番号は 29

⑤	④	③	②	①	
加えて	さらに	また	まず	すなわち	I
まず	加えて	さらに	すなわち	まず	II
また	まず	すなわち	加えて	また	III
さらに	すなわち	加えて	また	さらに	IV
すなわち	また	まず	さらに	加えて	V

問  
8

傍線部 E 「お墨付き」に最も近い意味になる慣用句を、次の①～⑤のうちから一つ選び、  
解答用紙の所定の箇所にマークしなさい。解答番号は 30

- ① 札付き
- ② 折り紙付き
- ③ 病み付き
- ④ 尾頭付き
- ⑤ 顎足付き